

## 「一斉授業」はコメニウスに始まる

副会長 上智大学教授 加藤幸次

かねてから、私たちが問題にしている学年制による学級集団の「一斉指導」というあり方は、いつ、どのようにして、だれが始めたのであろうかと疑問に思ってきている。「学年制」という歴年来による学級集団の構成は、多分、1870年代に始まる公教育制度の中で整備されていったと思われる。しかも、「学級集団」が50名前後の子どもたちで構成されるようになっていったことは、当時一般的になる「教室」の大きさがら見ても、想像されるところである。

一般的には、さらにさかのぼって、イギリスで第一次産業革命期（1780年ごろから1830年ごろ）に、「一斉指導」という指導形態が出現してきたと考えられている。例のベル・ランカスター方式によって、一堂に数百名の子どもたちを集め指導するという方式である。子どもたちはいくつかのグループに分かれ、グループごとに助教師（と言ってもすでに学習経験のある年長の子ども）がつく。教師は、まずこの助教師たちを指導し、助教師たちがグループごとに子どもたちの指導にあたる、という方式である。

ごらむた一挙に数百名の子どもたちを「一斉指導」するどいうあり方が、やがて1870年ごろまでに、50名前後の子どもたちを「教室」という学習空間に収容して、そこで一斉指導を行うという現在の姿に変わっていった。そこに、今日の公教育制度の出発点があった。

改めて驚いているのであるが、実は、J.A.コメニウス（1592～1670）がすでに17世紀に『大教授学』で「一斉指導」を主張しているのである。いや、むしろ、彼は教育を出来る限り多くの子どもに施すために、積極的に、一斉指導を推奨しているのである。（本年、大学で教育方法を担当せねばならず、稲富栄次郎訳『大教授学』、玉川大学出版を読んでいる。）

コメニウスは学校を“共同”の教育を施す場所ととらえ、「たとえ、子供等を教育するための時

間的余裕を持った両親があつたにしても、青年はこれを一つの大きな教室に集めて、多数一緒に教育する方が望ましい。なぜなら、一人の生徒が他の生徒の模範となり、刺激になるということになれば、よりよい結果と、より多くの楽しみが得られるからである。」（P.86）

興味あることに、コメニウス自身「今までは一学級の全生徒に対して同時に教授する方法が全く知られなかったということである。」と述べている。したがって、コメニウスこそ「一斉指導の父」ということになる。また、「私は一人の教師が同時に数百名の子供を教えることは、ただ単に可能であるのみならず、是非そうなるべきものだ」と主張する。」とも言う。（P.220）

それを可能にするために、コメニウスは「不必要な事柄、親しみのない事柄、余りに特殊な事柄」を取り除いた教科書（コメニウスが作った『世界図絵』は世界で初の教科書）と「一石二鳥」的な効果的な指導法が必要である、と言う。効果的な指導法について、八つの原則を詳しく述べている。（P.222～224）注目すべきことは子どもたちに対して“厳しい”態度でのぞんでいる点である。「若しも或生徒が不注意であることが分かれば、彼は即座に叱責し若しくは処罰されなければならない。」と言う。当時ごく一般的であったムチ打ちの音が聞こえてくる。そこには、原罪を引きつった子どもの姿がある。

いずれにしても、コメニウスは「教授学の父」と言われるが、実は、「一斉指導の父」でもあることがはっきりした。やがて、ロックやベスタロッチやルソーによって、学習する子どもの立場に注意がはらわれていくことになるのだが、公教育制度の確立にともなって、コメニウスの考え方が広く採用されたと言ってよい。ますます、ヘルバルトの位置が微妙なものになってきている、と言ってよい。

新 理 事 決 ま る

平成3年度からの理事を、下記の方々にお引き  
受けいただくことになりました。よろしく願ひ  
いたします。

- 会 長 染田屋謙相 (東京・前板橋区教育長)  
副会長 伊藤 一郎 (東京・目黒区教育長)  
" 加藤 幸次 (東京・上智大学教授)  
理 事 岩崎 誠一 (教育環境計画研究所長)  
" 太井 秀夫 (北海道・明和小学校長)  
" 工藤 鉄雄 (北海道・月寒東小学校長)  
" 佐藤 有 (北海道教育大学文部教育)  
" 重本 勘治 (北海道・大谷地東小学校長)  
" 坪谷 京子 (北海道教育大学講師)  
" 我孫子正紀 (山形・寒河江小学校長)  
" 細谷 克夫 (山形・戸沢小学校長)  
" 五十 嵐 藤 (福島・三春町教育委指主)  
" 斉藤 健一 (福島・川俣小学校長)  
" 武藤 義男 (福島・前三春町教育長)  
" 野村 裕子 (福島・高瀬小学校長)  
" 佐藤 益雄 (群馬・前橋教育研究所)  
" ○江連 富男 (埼玉・本庄市教育委指主)  
" ○坂地 澄夫 (千葉県総合教育センター)  
" ○石坂 和夫 (国立教育研究所室長)  
" ○上山 英昭 (東京・志村第二小学校長)  
" ○木戸 芳清 (日本視聴覚教材センター)  
" ○行徳 高德 (東京・前中目黒小学校長)  
" ○楠 元尾 (東京・浅草小学校長)  
" ○久保田 滋 (東京・目黒区教育研究所)  
" ○清水 正三郎 (東京・大東文化大学教授)  
" ○志茂 暁子 (東京・菅刈小学校教頭)  
" ○高浦 勝義 (国立教育研究所室長)  
" ○筒井 安雄 (東京・宮前小学校長)  
" ○永井 タケ子 (東京・大蔵小学校長)  
" ○永地 正直 (東京・西日本新聞社)  
" ○平野 朝久 (東京学芸大学助教授)  
" ○松野 康子 (東京・上野小学校長)  
" ○矢沢 公雄 (東京・東山小学校長)  
" ○岡本 昭男 (神奈川・大磯小学校長)  
" ○関 芳雄 (神奈川・上作延小学校長)  
" ○高橋 稔 (神奈川・下曾我小学校長)  
" 神代 醇一 (静岡県教育委指主)  
" 青木 昭平 (新潟・黒崎市教育委員会)  
" 上原 毅 (富山・入善小学校長)  
" 上島 賢一 (富山・野中中学校長)  
" ○浅沼 茂 (愛知・名古屋大学助教授)  
" 糸柳 弘 (愛知・二川南小学校長)

- 理 事 松下 响彦 (愛知・椋山女学院大助教授)  
" 鈴木 正幸 (神戸大学教授)  
" 長田 勝男 (沖縄・前大道小学校長)  
" 濑久地 政吉 (沖縄・那覇市教育研究所長)

---東海個性化教育研究会 (H.2.3 現在) ---

- 理 事 ○高木 省三 (会 長 東浦町教育長)  
" ○高橋 剛一 (副会長 島田市教育長)  
" ○安田 重信 ( " 池田小学校長)  
" ○板 恒雄 (愛知・緒川小学校長)  
" 竹内 順夫 (愛知・旭南中学校長)  
" 田口 博 (岐阜・前東白川村教育長)  
" 中山 健彦 (岐阜・東白川小学校長)  
" 岩間 隆義 (岐阜・大垣北中学校長)  
" 村松 務 (静岡・六合中学校長)  
" 山田 一男 (静岡・初倉小学校長)  
" 横田 川稔 (静岡・島田第二中学校長)  
" 原田 一男 (愛知・稲武町教育長)  
" 新美 一成 (愛知・片葩小学校長)  
" 榑原 秀道 (愛知・前卯ノ里小学校長)  
" 服部 昭一 (愛知・石浜西小学校長)  
" 安藤 慧 (愛知・卯ノ里小学校長)  
" 成田 幸夫 (愛知・上野中学校)  
" 魚住 忠久 (愛知教育大学教授)  
" 竹内 通夫 (金城学院大学教授)  
" 野村 鉦吉 (前常磐東小学校長)

---九州個性化教育研究会 (H.2.4 現在) ---

- 理 事 ○三原 英雄 (顧問 春日市教育長)  
" ○前崎 敏雄 (会 長 県教育センター副理事)  
" ○宮里 朝景 (副会長 沖縄・兼原小校長)  
" ○荒木 隆 ( " 北九州教育事務所)  
" ○松尾 法夫 (福岡・東郷小学校長)  
" 横大路 達也 (福岡・須恵第一小学校長)  
" 田中 晋 (福岡・教育事務所指導主事)  
" 中原 春樹 (福岡・福岡市教育センター)  
" 八谷 俊郎 (佐賀・山内小学校長)  
" 大塚 廣道 (長崎・猪飼小学校長)  
" 内田 末春 (熊本・山北小学校長)  
" 佐藤 実 (大分・川原小学校長)  
" 中島 増夫 (鹿児島・前加世田小学校長)  
" 安田 政登 (沖縄・前具志川市教育長)  
" 横田 裕之 (沖縄・中原小学校長)  
" 古謝 哲雄 (沖縄・高江州小学校長)  
" 小谷 良治 (沖縄・具志川市教育委指主)

(○印は常任理事)

※理事の方々の記載事項に誤りがありましたら、  
事務局までお知らせくださいますよう、願ひ  
いたします。

## 平成3年度の主な活動計画

### 会員名簿の発行

昨年度、念願の会員名簿ができあがり、会員の皆様にお届けしましたが、初版ということで、訂正すべき箇所が、かなりあるようです。

そこで、本年度も続けて1991年度版の会員名簿を作成することになりました。1990年度版の名簿で訂正すべき箇所がありましたら、至急お知らせください。名簿は、9月ごろに、できあがる予定です。

なお、連絡先は原則として、自宅住所とさせていただきます。学校住所の場合、転任されますと連絡がつかかねる場合がありますので、ご了承ください。

### 会誌「個性を育てる」第5号の発行

本会の会誌「個性を育てる」は、現在第5号の発行に向けて、準備を進めているところです。今回もたくさんの先生方に原稿を寄っていただき、ありがとうございました。

第5号は、コンピュータ教育についての特集です。コンピュータ教育についての考え方やコンピュータを活用した授業づくりの紹介など、これからの教育を考えていくうえで、大いに参考になると思います。

——バックナンバーをお分けします——

会誌の1・2・3・4号が少しだけ残っています。個別化・個性化教育についての理論や授業づくりの特集で、たくさんの先生方に寄っていただいています。ご希望があれば、1冊500円でお分けします。

〈会誌の注文・投稿に関する問い合わせ先〉

〒278 千葉県野田市堤台438-96

編集部長 松田 早苗

☎0471-25-2649

### 本の掲載・発行

以前からお知らせしていましたが、「個性化教育実践ハンドブック」と「個性化教育実践校ガイドブック」の出版に向けて、動き出しています。どちらの本も、本年度中には、なんとか出せそうです。

### 第7回夏季研修会の開催

昨年度の九州に続いて、本年度は東京で行います。現在、全国個性化教育研究連盟事務局を中心に、準備を進めています。

今回は、「新指導要領と個性化教育のあり方——個性を生かす学習環境——」をテーマに、加藤幸次先生、高浦勝義先生ほか、多彩な講師の先生方をお迎えして、会員の皆様といっしょに考えていきたいと思っています。また、都内のインテリジェントスクールやオープンスクールの見学も計画しています。ぜひ、ご参加ください。

・期日 7月25日(木)～7月27日(土)

・会場 上智大学(JR・地下鉄四ツ谷駅下車 徒歩3分)

このほか、秋ごろに東京地区で、生活科の研究会などを予定しています。くわしいことが、決まりしだい、ご案内します。

個性化教育の新しい研究会が、生まれましたので、紹介させていただきます。

◇◇具志川市(沖縄)個性化教育研究会発足◇◇

平成3年2月28日、具志川市立田場小学校において、具志川市個性化教育研究会が開かれ、異なる学校に勤めている先生方が、個性化教育を推進していく立場で一同に会した。

具志川市個性化教育研究会を結成し活動していくために開かれたこの日の研修会は、6年算数の提案授業から始まり、3名の先生方による研究報告の後、この日の研修会までの経過や個性化教育研究会の会則・入会方法などの説明が行われた。

◇◇◇韓国オープン教育研究会の発足◇◇◇

私たちの会の国際会員の一人、朴性芳さん（ソウル市の泳童小学校長）を中心に「韓国オープン教育研究会」が本年4月に発足した。去る5月6日、約300人近い参加者を得て、同校において第一回の研究会が開かれ、オープン・スペースをもった同校の授業公開のあと、韓国教育開発院の李容淑さんの「オープン・スクールと伝統校における学習活動の分析」というテーマでの講演があった。

午後は本会の副会長加藤幸次氏が「日本のオープン教育」について講演した。今後、国際的な協力も考えて行くべき時に来ているのではないか。



会長 殷容基（徳成女子高等学校長）  
副会長 朴性芳校長、李容淑研究員および  
金恩山教授（ホンイ大学、韓国におけるA.S.ニールのサマー・ヒル学校の紹介者）

事務局だより

平成3年度に入り、事務局の組織が一部かわりました。事務局を中心に会員の皆様の力で、個性化教育をさらに推進していきたいと思います。

本会に関する問い合わせは、下記までお願いいたします。

〈事務局への問い合わせ・連絡先〉

〒114 東京都北区赤羽南1-16-2-504  
☎03-3903-4780 庶務部長 佐久間茂和

〈事務局新組織〉

- |                           |     |                                                                                                    |
|---------------------------|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事務局<br>局長<br><br>高浦<br>勝義 | 庶務部 | ○佐久間茂和（東京）<br>山田富久（東京）<br>加藤幸次（東京）<br>（東海・九州個教研連絡担当）<br>成田幸夫（愛知）<br>（東海個教研）<br>池田信一（福岡）<br>（九州個教研） |
|                           | 広報部 | ○望月桂二（東京）<br>五十子晴美（東京）<br>館岡茂樹（神奈川）                                                                |
|                           | 会計部 | ○中沢米子（東京）<br>橋本享子（東京）                                                                              |
|                           | 研究部 | ○浅沼茂（愛知）<br>加藤勇（埼玉）<br>結城恵（埼玉）<br>加藤浩子（東京）                                                         |
|                           | 研修部 | ○河合剛英（神奈川）<br>等々力美津子（東京）<br>並木康成（神奈川）<br>池田伊三郎（神奈川）<br>久保寺克明（神奈川）                                  |
|                           | 編集部 | ○松田早苗（千葉）<br>川島良代（東京）<br>小久保晶良（埼玉）<br>荻久保公秋（埼玉）                                                    |

（○印は各部の部長）

全国個性化教育研究連盟会報 第18号

平成3年5月20日発行

編集責任者 事務局長 高浦勝義

編集 広報部長 望月桂二